

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(有明海)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	平成27年9月14日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設は青田が広がる静かな田園地帯にあります。田植えや稲刈りなどの農作業を間近に見ながら暮らすことができます。入居者がどのような生活を望まれ、自分らしい生活が送れるように、職員は寄り添いながら共に生活しています。町内には桜の名所が多く、山手には梨畑が広がり、3月末には両方の花が同時に咲くのでお弁当を持って花見に出かけます。楽しみな年中行事の一つになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

たわわに実った稲穂が広がる田園風景の中に法人施設と共に建つホームである。開所から12年の月日は入居者の入替わりや、介護から医療的支援を必要とする方が増える現状にある。職員はホームでの生活継続を願い必要時には2人体制で支援にあたるなど時間をかけて対応しており、理念に掲げる“家族のようなかわり”に繋がっている。1フロアの広いリビングに全入居者が集い、テーブルの合間をはつらつとした若い職員と経験豊富なベテラン職員が行交い、個々の話を聞きながら支援する様子に温かいものを感じることができる。家庭的な支援に、慣れ親しんだホームで最終を迎えて欲しいと希望する家族も多く、夜間対応の出来る協力医の存在は心強く、今後も連携を図りながら入居者や家族にとってやすらぎのある時間を提供頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念の意義を考え、利用者との関係を有効に保てるよう努力しているが、理念の一つの「地域の皆様との共存共栄」は希薄である。	この一年は職員の異動などにより改めて理念を考える機会を持ち、5項目の意味合いについて個々の職員が自身で解釈して確認している。“私たちは家族です”の言葉についても、あくまでも家族のような接し方をしながらも、個人を尊重し、大切に育てていくという視点に立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の家族、知人、近所の方など面会にはよく来てもらっているが、事業所側から積極的に地域の行事に参加するのは敬老会くらいしかない。	住宅地と距離を置立地上、なかなか地域の人々との接点は少ないようである。管理者はキャラバンメイの活動を通し、人々に向け認知症への理解を求め啓発活動に参加しながら、地域へ出る足がかりを模索している。日々の散歩や法人行事などの参加により、入居者が外部の人々と交流する機会を作っている。	地域との少ない接点の中にも絶えず玄関をオープンにし、道行く人々に声をかけるなど出来る事で交流を続けている。今後は中断している地元神社の子ども御輿について関係者に話を聞いたり、身近なところから進めて行かれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイの一員として「認知症サポーター養成講座」で地域の人々に、認知症についての理解や支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施している。2か月間の職員会議の内容、職員の研修受講、行事、利用者の入退居、職員の入退社等を報告している。また事業所に関係のある介護保険の改正内容、事業所の指定更新制度等を説明している。委員さんから介護保険の制度や有料老人ホームの入居資格等いろんな質問があったりして、包括や職員の間でわかる範囲で説明している。委員さんから地域の情報などを提供してもらっている。	二か月ごとの定期開催が継続されている。地域事業に精通した地元代表者や家族・包括職員がそれぞれの立場で質疑応答を行い、管理者が入居者の現状や職員の研修、異動についても包み隠さず報告している。行政へ参加を継続して打診されており、毎回でなくとも直接顔を合わせることで、更なる協力体制が実現されることと思われる。	地域代表者から広く意見を収集し、運営に反映させるという点では参加者が限られるようである。時には会議内容を絞り、防災や防犯、その他様々な地域の現状を関係者を交えて情報を共有することでホームとしての地域でのあり方を再確認する機会にも繋がると考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は事業所の指定更新の年で8月31日が期限だった。6月頃より必要項目を聞いたり、内容でわからないところを聞いたりして早めに提出することができた。	管理者はホームと近距離にある行政へ必要あるごとに出向き、運営上のアドバイスや指導を受けている。また、包括職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームの現状を共有しながら介護保険改定に伴う説明をもらうなど友好的関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での勉強会に参加したりし、施設内で勉強会を行い、全ての職員が身体拘束の弊害を理解している、職員同士で声掛けを行いケアに取り組んでいる。日中は3か所の出入り口は開放され、自由に出入りができる。	玄関・ホールを共有する両ユニットが左右に広がり、入居者は壁の無い空間を自由に行き来している。年月を重ねる車椅子利用者が増える中、職員は部屋に引きこもることのないようリビングで皆が顔を揃えて過ごすよう心がけている。外部研修への参加を促し、内容について会議の席で文章にして読み合わせ共有を図っている。	居室で使用する音センサーについては、定期的な家族への報告が必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内での研修で虐待防止を学び、職員同士お互いに注意しあいながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内での研修で権利擁護を学んでいるがなかなか難しいのでこれからも学んでいかなければならないと思う。家族から相談を受けた時は説明を行っている。しかし個々での条件が違うので、詳しいことは役場に相談されるよう勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書の内容を納得いかれるまで詳しく説明している。わからないことを聞かれる時、気軽に聞きやすいような雰囲気を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書を玄関に設置しているが利用者は無し。面会簿にも意見欄があるので、言いづらいた時は書いていただくよう伝えているがわずかしかない。話しやすい雰囲気づくりを心がけ、直接意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望はすぐに話し合い、対処している。	意見箱を設置しているがなかなか利用されないようである。また、第三者委員会を立ち上げ利用関係者からの意見や苦情に応じる体制をとっているが、現在までに検討された例はない。家族の来所時には入居者の近況を交えながら忌憚のない意見を求め、その中で相談ごとについては記録に残し、その都度対処している。	第三者委員会については運営推進会議の中でも紹介し、ホームの透明性を図っている。入居者とはこれまで同様、普段の会話から暮らし方や食への希望などを拾うことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝の申し送り時、また機会あるごとに職員が自分の意見を遠慮なく話せるような雰囲気作りを心がけている。提案された意見はよく検討して活かせるようにしている。	管理者は地域に対する職員の姿勢を大切にしながら気づいたことを自由に言える雰囲気作りにも心がけている。職員から出された意見や要望を施設長と共に検討しながらケア向上に反映させ、職場環境の充実を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	退職金制度や夜勤明けの取り扱いなど職員から出た要望を代表者に検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に研修会に参加し、職員会議の時に報告し、研修内容を共有できるようにしている。また資格取得に際しては援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間の同業者との交流は毎月の研修会の時や年1回の忘年会の時に行っている。日常的に交流することは少ない。管理者は管理者会議の時や電話などで意見を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が入居前に生活歴の把握をし、本人が困っている事、不安や要望に共感し話を聞くことで安心できる関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのようなことで家族が困っているのか、不安に思っているのか、どのような要望があるのかを聞いて職員間で情報を共有し、家族との良好な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人から十分に話を聞き、その情報をもとに本人の思いに沿った支援が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である「共に泣き笑い」ができるような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の距離が離れないよう、面会に来られた時は毎日の生活ぶりを詳しく説明し、相談しながら家族と共に介護しているという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人の家やなじみの場所に出かけていくことは難しいが、気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりに努めている。	毎年楽しみにしていた夏の風物詩であったゴーヤの緑のカーテンが苗不足により実現しなかったが、来年は早めに取り掛かりたいと語っている。入居者は室内にいても玄関から望む馴染みの風景を眺め、家族や知人の来訪を心待ちにしながら穏やかに過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、職員が声掛けをしている。本人の性格や環境など考慮し、お互いに気持ちよく過ごせるよう、咳などを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院に移られる際、必要な情報を提供している。退去後も家族が相談に見えたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話などから情報収集し、どのような暮らしを望んでおられるのか考えて支援している。また自らの表現が困難な方は、普段の様子、表情より本人本位の検討を行っている。	職員は入居者との何気ない会話の中で思いを汲み取り、日々の支援に反映させている。自ら意見や要望を言われることが少なくなったからこそ、積極的に話しかけるよう心がけ、家族の意見については記録に残すことで、共有を図りプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に直接話を聞いたり、家族が訪問された時に生活歴を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしぶりがどのようなものかよく観察し、本人の持てる力など新たに発見した時は職員全員で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望をもとに介護計画を作成している。モニタリングにより現状に添わなくなった時は介護計画の見直しを行っている。	この一年は退去に伴う入居者の入れ替えが数例あり、新たな方が一日も早く落ち着いて過ごせるような支援をプランに盛り込んでいる。2ユニットではあるが、中央に広いリビングを有するホームでは、職員が全入居者を把握し現状を見極めながらケア会議で必要な支援を提案して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に毎日の介護記録を記入し、ケアの実践を行うとともに、申し送りなどで職員間で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の希望、家族との外出等、その時に生まれるニーズに対しては柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや役場、病院、商店、床屋さん等、必要なところとの繋がりはあるが、そのほかの資源との繋がりはいらない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を継続できること、事業所の協力医に変更できることを説明して本人や家族に決めてもらっている。かかりつけ医への定期受診、そのほかの受診の支援も行っている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続出来る事や、夜間対応が可能な協力医についても説明し、希望があれば協力医への移行に応じている。受診はホームで対応しているが、病状によっては現地で家族と待ち合わせ、状況を共有している。入居者の身体機能の低下は否めず、車椅子利用も増えているのが現状であり、今後も日頃の健康管理やかかりつけ医との連携に努めていきたいとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないので、いろいろ変化があった場合はかかりつけ医に電話で相談して受診したり往診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに病院に情報提供を行っている。不慣れな場所で不安やストレスが溜まらないよう、なじみの職員が一日おきくらいに病院訪問し面会している。家族ではないため病院側からの現状説明はしてもらえないが、看護師さんから出来る範囲で状態を聞くように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に事業所で出来ること、出来ないことを説明している。	重度化した場合の対応については、入居時に家族の意向や思いを汲み取りながら指針をもとに説明を行っている。その後話し合いの必要な時点で家族の意向を再確認し、契約書を交わしている。何かあれば直ぐに対応可能な協力医の存在は心強く、職員・家族の安心するところとなっている。殆どの方が住みなれた家庭的なホームでの最終を希望されており、今年度も安らかな最期をホームで終えられた方がおられる。	人生の先輩を支援するということに誇りと自信を持って、これからも日頃のケアを振り返りながら、『やすらぎの里』にできる最良の支援に努めていかれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を対象とした避難訓練は昼と夜、年2回行っている。それ以外の災害時の訓練は行っていない。	年二回火災非難誘導訓練を入居者と共に実施している。自然災害についての訓練は行われていないが、備蓄を法人で管理し、内容についてはファイル上で共有が図られている。管理者は自然災害の訓練の必要性を語っている。	今後は消防署の参加や、自然災害についても机上訓練を含め実施されることが必要と思われる。また、ホーム周りの点検をはじめ、居室や建物内の日々の安全点検の継続に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ばかりなので言葉使いに気を付けながら声掛けを行っている。しかし長い付き合いになるとついため口で話したりしてしまうので、職員同士で注意しあうことが必要。	人生の先輩であることを心にとめ接することを、日頃から代表者や管理者は指導している。呼称は基本的に苗字であるが、下の名前の方が安心される場合は家族の了解のもと対応している。声のトーンや馴れ合いの会話などまだまだ気になる点もあり、今後も職員の意識を図っていきたいとしている。	入居者の尊厳や誇り、プライバシーを損ねない対応については、今後も課題の一つとして取り組まれることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での意思表示が難しい方、自己決定が難しい方でも、表情や全身の動きの反応を注意深く観察し本人の希望を読み取れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりのペースを大切に、意思疎通が難しい方でも表情や日頃の様子からその思いをくみ取り、本人の意向に沿った暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服をアドバイスして違和感のないように支援している。男性の場合髭剃りを支援している。入居前からのなじみの理美容院の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いて食事ができるように席の配置を考慮している。本人の嚥下能力に合わせた食事形態で食事を提供している。歯科医師に相談して義歯の調整を行ったりして、できるだけ普通食を食べていただけるようにしている。	隣接法人施設で調理された食事提供が行われ、主食(普通・お粥)のみホームで炊いている。入居者が直接調理や食材購入などに関わることは殆どないため、おやつ作りの機会を設けている。また、花見の際は弁当店ですの方にあった昼食を購入し、外出時の食事を楽しめるようにしている。自身で食事される方が少なく、職員は介助に関わるため交替で食事休憩を取っている。	以前からの課題でもあるが職員も入居者と同じものを一名でも摂り、献立や味付けなど入居者の代弁者として意見を反映させることも必要と思われる。また、食事に関するアンケートの実施にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器からの食べこぼしが多い人には介護用の食器を使用してもらい、食べこぼしを少なくし、全摂取できるように対応している。個人別に食事量、水分量を記入し不足が無いか気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員全員が認識しており、毎食後本人の状態に合わせて歯ブラシ、舌ブラシ、口腔ケアティッシュを使って口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。定時でなくても本人の訴えがあった時、本人の様子から声掛けしトイレ誘導を行っている。尿意・便意がなくてもトイレでの排泄を意識づけている。昼間は布パンツに変更したりしている。	本人からの訴えや定期誘導を行い、オムツを使わない排泄支援に取り組んでいる。見守りや職員2名での対応などプライバシーに配慮しながら、個々に応じた安全な支援に努めている。また、排泄用品や支援方法も職員の都合で決定しないことが共有されている。	トイレ内は気持ちよく使用出来る様日々の掃除に努めている。今後は、自立に近い方もおられることから、流し忘れがないかなど細やかな確認を徹底されることも必要と思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に運動の促しを行ってもほとんど実行できない。水分を十分に摂っていたり、排便チェック表をもとに、ドクターに相談しながら下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただくという状態にはなり得ていない。入浴拒否のある方には、時間や日にちを変更して入浴を促している。	週2回の入浴であるため、一番風呂の希望にもできるだけ応え丁寧な支援を心がけている。また、入浴後は皮膚疾患の処置にもコミュニケーションを取りながら時間をかけ対応している。明るい浴室ではシャワーキャリーの使用や見守り、その人の出来るところを見極めての支援など、個々の状況に応じ実施されていることが確認された。	現在の入居者に合わせた楽しい入浴支援について、職員の一工夫を期待したい。身近な取り組みとして変わり湯(菖蒲・柚子・季節の花など)の支援や職員の体制が整えば週2回の入浴回数が増えることも検討頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が無いか確認したり、その人の身体状況に合わせて休息を取って頂いている。本人のペースに合わせた就寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的は大まかに把握している。用法や用量に間違いがないよう確実な服薬を心がけている。症状に変化や心配事があればかかりつけ医に相談し、薬の調整を指導してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が興味のあることや楽しみと感ずるものを聞き出して実現できるように支援している。自宅で日課として行っていた洗濯物干し・取り込み・たたみ等を行ってもらっている。食後の茶碗拭き等も体調のいい時には積極的に取り組んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援の頻度は少ない。ほぼ毎日のように、近所へ散歩に行かれる方がおられるので職員が同行している。家族にも外出支援をお願いしている。	個々の希望や日常的な外出の機会は少ないが、散歩好きな方に、トイレのタイミングを考慮しながら支援したり、家族の協力(面会時に外食や買い物)を得ながら取り組んでいる。また、桜見学には数ヶ所に出かけたり、入居者の状況に応じて午前・午後でコスモス見学を計画するなど、地域資源を生かしながら取り組んでいる。系列法人主催の『月見の会』は、地域の人々との交流や家族との参加を楽しみにされている。	入居者のADLの低下により、揃っての外出は困難になっているが、引き続き玄関先で田畑の様子を眺めたり、車の往来を眺めるなど出来る身近な支援に努めて頂きたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はほんのわずかだが、持っていることで安心されるようだ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話のダイヤルを回したりして支援している。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は毎日掃除をして気持ちよく生活できるようにしている。空調も居心地の良い温度に設定している。一日の大半を過ごすホールには季節の飾りつけをして季節感を味わってもらっている。	オープンにされた玄関に入ると、家族から届けられた観葉植物や職員の持ち寄った季節の草花が入居者や来訪者を温かく迎える工夫がなされている。両ユニット間に設けられたリビングホールで1日の殆どを過ごすため、特に空調管理に努めており、車椅子利用者が増えたこともあり、状況に応じてソファや家具、仏壇などの配置が検討されている。また、洗面台の鏡に自身が映ることで不穏になれる方に配慮し、レースが取り付けられている。	リビングのソファに座って庭先の花を眺めることは何よりの時間と思われる。今年は恒例のグリーンカーテン(ゴーヤ)作りが出来なかったようであり、来年の取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が隣り合って座り、談話が楽しめるように、また集団を好まれない方は一人でゆっくり過ごしていただけるようソファの位置を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人でゆっくり過ごせる場所なので、自宅から持ち込んだ家具やテレビを配置し、壁には家族の写真などを貼って家庭に近い雰囲気居心地良く過ごしていただくように工夫している。	入居時にゆっくりと寛げる空間となる様、持ち込みの品について説明を行っている。十分な広さの居室には、クローゼットや三段ボックスが準備されており、衣類などの品々はスッキリ収納されている。家族の写真やカレンダーの掲示、家具やテレビを持ち込まれている方もおられるが、全体的に馴染みの品々の配置は少ないように見受けられた。	持ち込みの品が多いことがベストではないが、ホームで生活される一人ひとりが穏やかな時間を過ごせるよう、家族への働きかけや職員の継続した工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室ががわかるように大きな張り紙をしている。物の配置は通行の妨げにならないよう置き場所を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(玄界灘)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	平成27年9月14日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設は青田が広がる静かな田園地帯にあります。田植えや稲刈りなどの農作業を間近に見ながら暮らすことができます。入居者がどのような生活を望まれ、自分らしい生活が送れるように、職員は寄り添いながら共に生活しています。町内には桜の名所が多く、山手には梨畑が広がり、3月末には両方の花が同時に咲くのでお弁当を持って花見に出かけます。楽しい年中行事の一つになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念の意義を考え、利用者との関係を有効に保てるよう努力しているが、理念の一つの「地域の皆様との共存共栄」は希薄である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の家族、知人、近所の方など面会にはよく来てもらっているが、事業所側から積極的に地域の行事に参加するのは敬老会くらいしかない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトの一員として「認知症サポーター養成講座」で地域の人々に、認知症についての理解や支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施している。2か月間の職員会議の内容、職員の研修受講、行事、利用者の入退居、職員の入退社等を報告している。また事業所に関係のある介護保険の改正内容、事業所の指定更新制度等を説明している。委員さんから介護保険の制度や有料老人ホームの入居資格等いろんな質問があったりして、包括や職員のわかる範囲で説明している。委員さんから地域の情報などを提供してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は事業所の指定更新の年で8月31日が期限だった。6月頃より必要項目を聞いたり、内容でわからないところを聞いたりして早めに提出することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での勉強会に参加したりし、施設内で勉強会を行い、全ての職員が身体拘束の弊害を理解している、職員同士で声掛けを行いケアに取り組んでいる。日中は3か所の出入口は開放され、自由に出入りができる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内での研修で虐待防止を学び、職員同士お互いに注意しあいながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内での研修で権利擁護を学んでいるがなかなか難しいのでこれからも学んでいかなければならないと思う。家族から相談を受けた時は説明を行っている。しかし個々での条件が違うので、詳しいことは役場に相談されるよう勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書の内容を納得いかれるまで詳しく説明している。わからないことを聞かれる時、気軽に聞きやすいような雰囲気を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書を玄関に設置しているが利用者は無し。面会簿にも意見欄があるので、言いづらいた時は書いていただくよう伝えているがわずかしかない。話しやすい雰囲気づくりを心がけ、直接意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望はすぐに話し合い、対処している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝の申し送り時、また機会あるごとに職員が自分の意見を遠慮なく話せるような雰囲気作りを心がけている。提案された意見はよく検討して活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	退職金制度や夜勤明けの取り扱いなど職員から出た要望を代表者に検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に研修会に参加し、職員会議の時に報告し、研修内容を共有できるようにしている。また資格取得に際しては援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間の同業者との交流は毎月の研修会の時や年1回の忘年会の時に行っている。日常的に交流することは少ない。管理者は管理者会議の時や電話などで意見を聞いたりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が入居前に生活歴の把握をし、本人が困っている事、不安や要望に共感し話を聞くことで安心できる関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのようなことで家族が困っているのか、不安に思っているのか、どのような要望があるのかを聞いて職員間で情報を共有し、家族との良好な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人から十分に話を聞き、その情報をもとに本人の思いに沿った支援が提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である「共に泣き笑い」ができるような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の距離が離れないよう、面会に来られた時は毎日の生活ぶりを詳しく説明し、相談しながら家族と共に介護しているという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人の家やなじみの場所に出かけていくことは難しいが、気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、職員が声掛けをしている。本人の性格や環境など考慮し、お互いに気持ちよく過ごせるよう、咳などを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院に移られる際、必要な情報を提供している。退去後も家族が相談に見えたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話などから情報収集し、どのような暮らしを望んでおられるのか考えて支援している。また自らの表現が困難な方は、普段の様子、表情より本人本位の検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に直接話を聞いたり、家族が訪問された時に生活歴を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしぶりがどのようなものかよく観察し、本人の持てる力など新たに発見した時は職員全員で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望をもとに介護計画を作成している。モニタリングにより現状に添わなくなった時は介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に毎日の介護記録を記入し、ケアの実践を行うとともに、申し送りなどで職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の希望、家族との外出等、その時に生まれるニーズに対しては柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや役場、病院、商店、床屋さん等、必要なところとの繋がりはあるが、そのほかの資源との繋がりはいらない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を継続できること、事業所の協力医に変更できることを説明して本人や家族に決めてもらっている。かかりつけ医への定期受診、そのほかの受診の支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないので、いろいろ変化があった場合はかかりつけ医に電話で相談して受診したり往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに病院に情報提供を行っている。不慣れた場所で不安やストレスが溜まらないよう、なじみの職員が一日おきくらいに病院訪問し面会している。家族ではないため病院側からの現状説明はしてもらえないが、看護師さんから出来る範囲で状態を聞くように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に事業所で出来ること、出来ないことを説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を対象とした避難訓練は昼と夜、年2回行っている。それ以外の災害時の訓練は行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ばかりなので言葉使いに気を付けながら声掛けを行っている。しかし長い付き合いになるとついため口で話したりしてしまうので、職員同士で注意しあうことが必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での意思表示が難しい方、自己決定が難しい方でも、表情や全身の動きの反応を注意深く観察し本人の希望を読み取れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりのペースを大切に、意思疎通が難しい方でも表情や日頃の様子からその思いをくみ取り、本人の意向に沿った暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服をアドバイスして違和感のないように支援している。男性の場合髭剃りを支援している。入居前からのなじみの理美容院の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いて食事ができるように席の配置を考慮している。本人の嚥下能力に合わせた食事形態で食事を提供している。歯科医師に相談して義歯の調整を行ったりして、できるだけ普通食を食べていただけるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器からの食べこぼしが多い人には介護用の食器を使用してもらい、食べこぼしを少なく、全摂取できるように対応している。個人別に食事量、水分量を記入し不足が無いか気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員全員が認識しており、毎食後本人の状態に合わせて歯ブラシ、舌ブラシ、口腔ケアティッシュを使って口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。定時でなくても本人の訴えがあった時、本人の様子から声掛けしトイレ誘導を行っている。尿意・便意がなくてもトイレでの排泄を意識づけている。昼間は布パンツに変更したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に運動の促しを行ってもほとんど実行できない。水分を十分に摂っていたり、排便チェック表をもとに、ドクターに相談しながら下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただくという状態にはなり得ていない。入浴拒否のある方には、時間や日にちを変更して入浴を促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が無いか確認したり、その人の身体状況に合わせて休息を取って頂いている。本人のペースに合わせた就寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的は大まかに把握している。用法や用量に間違いがないよう確実な服薬を心がけている。症状に変化や心配事があればかかりつけ医に相談し、薬の調整を指導してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が興味のあることや楽しみと感ずるものを聞き出して実現できるように支援している。自宅で日課として行っていた洗濯物干し・取り込み・たたみ等を行ってもらっている。食後の茶碗拭き等も体調のいい時には積極的に取り組んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援の頻度は少ない。ほぼ毎日のように、近所へ散歩に行かれる方がおられるので職員が同行している。家族にも外出支援をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はほんのわずかだが、持っていることで安心されるようだ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話のダイヤルを回したりして支援している。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は毎日掃除をして気持ちよく生活できるようにしている。空調も居心地の良い温度に設定している。一日の大半を過ごすホールには季節の飾りつけをして季節感を味わってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が隣り合って座り、談話が楽しめるように、また集団を好まれない方は一人でゆっくり過ごしていただけるようソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人でゆっくり過ごせる場所なので、自宅から持ち込んだ家具やテレビを配置し、壁には家族の写真などを貼って家庭に近い雰囲気の中で居心地良く過ごしていただくように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室がわかるように大きな張り紙をしている。物の配置は通行の妨げにならないよう置き場所を工夫している。		